

識別番号	P 1 9	2010 年度完了学内共同研究
研究課題	創造と調和：共生の智の探求—文明の未来に向けて	
研究代表者	田中裕（哲学研究科）	
共同研究者	宮本久雄（神学研究科）、長町裕司（哲学研究科）、具正謨（神学研究科）、 シリル・ヴェリヤト（外国語学部アジア文化副専攻）、ジョゼフ・プッテンカラム （経済学部経済学科）	
Summary	Creativity and Harmony: The Way of Eco-Sophia for the future of Civilization (The Eco-Sophia Symposium 2011) aims at bringing into contact various research activities in diverse fields undertaken by philosophers, natural & social scientists, and theologians from all over the world, who are inspired by the Way of <i>Eco-Sophia</i> , creative wisdom of humanity living harmoniously with Nature and with Other Cultures & Other Religions for the future of civilization.	

1. 本研究の目的及び背景

21世紀において全地球的な課題と取り組むと共に諸文化・諸宗教との対話を盛んにすることが必要である。100年前に上智大学が建学されたときの目的のひとつもまた、そのような文明間対話であった。現在に於いては、さらに科学技術の進歩にともなう環境破壊や生命倫理の諸問題に対処するためには国境を越える全地球的な取り組みが必要である。本研究は、上智大学建学百年事業企画として立案した国際学会 *Eco-Sophia Symposium 2011* の開催を準備するための学内共同研究であった。我々はヨーロッパ、アメリカ、インド、中国、韓国などの研究者と連携しつつ、上智大学の建学の理念 **<men and women for others, with others>** にもとづき、全地球的な倫理的課題を共同で研究する。「他者のために、他者と共に生きる」建学の理念を、「共生の智の探求」という文脈で具体化することが本研究の目的である。

2. 研究の方法・内容と共同研究員の役割分担

2009年度は田中裕、長町裕司、宮本久雄を中心として、哲学研究科・神学研究科で合同の研究会を開催し、「共生」にかんするゼミを実施した。共同研究の一環として海外の優れた研究者を招聘して *Eco-Sophia* 公開講演会・公開シンポジウムを実施。第一回の *Eco-Sophia* 公開講演会は2009年10月26日に米国クレアモント大学院から、Roland Faber 教授を招聘して、公開講演会「共に生き共に創る—人間原理以後のエコロジー神学」を開催した。これは2011年のエコ・ソフィアシンポジウムのための国際的な共同研究への布石であった。2010年2月20日には、ハワイ大学よりスチーブ・オディン教授を招待して、公開シンポジウム「共生とは何か」を開催した。2010年度も引き続きこの共同研究を推進し、国際学会エコ・ソフィア・シンポジウム2011に備えた。

3. 研究の成果

2009年—2010年に宮本久雄、具正謨、長町裕司、シリル・ヴェリアト、田中裕を中心として、哲学研究科・神学研究科で合同の研究会を開催し、「共生」にかんするゼミを実施し、以下の問題を討議した。

- (1) キリスト教文明と他宗教の文明との共生
- (2) キリスト教の伝統から共生の問題を考える
- (3) エコロジーの神学的基盤

この共同研究の成果は、以下のように上智大学学内誌「共生学」に収録されている。

宮本久雄 「和解と共生への荆棘的途行き」

共生学 創刊号 (2009) pp. 4-26

要旨：旧約聖書の出エジプト記に由来する「エヒエロギア」という著者の研究テーマを、自己と他者の和解と共生の物語りとして展開した論文。

シリル・ヴェリアト “Divine Grace and Salvation in the Teachings of RAMANUJA”

共生学 第2号 (2010) pp. 23-42

要旨：シャンカラの絶対的不二一元論を修正したラーマヌジャの相対的な不二一元論を解説しつつ、そこに神と人間の信愛（バクティ）的交流およびそれに基づく人々の信愛的共生を説いた論文。

長町裕司 「＜絶対的に他なるもの＞からの媒介的生成を通しての共生」

共生学 第2号 (2010) pp. 59-79

要旨：生態学的な symbiosis(種相互の共棲・互惠性)ではなく、哲学的な共生 (conviviality) の概念をハイデッガーの＜存在の思惟＞から考察した論文。

具正謨 「＜靈操＞と＜禪＞における回心

—William Jonston の神秘神学に於ける内面の共生について—

共生学 第3号 (2010) pp. 26-48

要旨：William Jonston の著作を手引きとし、イグナチオの「靈操」と禪という異なる宗教の伝統間の対話を通して「内面の共生」という神学的テーマを扱った論文。

田中裕 「聖書における言葉と沈黙—＜道の形而上学＞に寄せて」

共生学 第4号 (2010) pp. 135-150

要旨：「ことば」を「道」としてとらえる「道の形而上学」の立場から「共生」を論じ、聖書に書かれた「言葉」と「沈黙」、神と人との逆対応的な関係を、西田哲学を手引きとして考察した論文。

○ 2011年9月26日—29日に開催される国際学会は、ソフィアシンポジウムの企画であると同時に、日本ホワイトヘッド・プロセス学会と International Process Network と共催する国際学会でもある。米国・ヨーロッパ・韓国・中国・インドなど世界各地から118名の登録があった。